

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年10月14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873100606		
法人名	社会福祉法人 青丘		
事業所名	グループホーム こすもす	ユニット名	1
所在地	〒319-0101 茨城県小美玉市橋場美528		
自己評価作成日	平成26年4月19日	評価結果 市町村受理日	平成26年10月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873100606-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年5月12日	評価機関 決 済 日	平成26年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

こすもすでは、入居者の皆様が季節の変化に触れられるように、日々のレクリエーションを行っています。月に一度のおやつ作りは、利用者の皆様に調理器具を持って、調理に参加していただき、日々の家庭での調理場面を思い出して頂けるような機会を作るよう努めています。季節の野菜を菜園で育て、日々の料理に活用したり、一緒に何かを作ってみたり、日々の生活の中で、ちょっとした幸せを一緒に楽しんで頂けるよう配慮しています。入居者の皆様が、安心して暮らして行ける施設になるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営母体の協力医療機関が近隣にあり、24時間体制で緊急時の対応が可能となっている。
週1回訪問診療があるほか、毎週金曜日は「グループホームこすもすの外来受診日」と定めており、利用者の状態に応じて職員が通院支援をするなど、健康管理を重視したケアにより、利用者や家族等の安心につながっている。
2ヶ月毎に回転寿司やレストランでの外食を支援しているほか、職員が毎月手作りのおやつを作って提供している。
事業所の中庭で利用者と職員が季節の野菜を栽培し、食材に取り入れて食事が楽しめるよう支援をしている。
管理者は日頃から職員と気軽に話しができるよう連携を図り、全職員で利用者と家族等の希望にそった支援ができるよう努めている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流を大切にし、家庭的な雰囲気の中で、入居者の一人一人の個性を尊重し、安らぎのある日常生活を支援します。」という、独自の理念があり、食堂に掲示すると共に、朝礼時に全職員で唱和、確認、実践に努めている。	「地域との交流を大切に、家庭的な雰囲気の中で入居者の一人ひとりの個性を尊重し、安らぎのある日常生活を過ごせるよう支援します」を理念に掲げ、食堂に掲示している。 職員は毎日の朝礼時に理念を唱和して確認するとともに、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺の清掃活動を利用者と職員で行ったり、地域の方を招待して納涼祭を行うなど、利用者と地域とのつながりを大切にしている。工作、歌、研修生等の受け入れを通し、利用者がボランティア等、人々と交流している。	近隣にある同一法人の特別養護老人ホームやケアハウスと合同で納涼祭を開催し、多数の地域住民を招待するなど、利用者が地域の人々と交流ができるように支援をしている。 韓国福祉大学の学生を研修生として受け入れているほか、月1回定期的に地域のボランティア「すみれの会」を受け入れ、歌を歌ったり、作品を作ったりして地域の人々と交流している。 利用者は職員と週1回程度散歩に出かけた際には、地域の住民と会話を交わしたり、ゴミや空き缶を拾って日頃から地域の美化に努め、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度行い、御家族や民生委員、市役所職員と共に認知症高齢者支援について話し合っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時に、次回の開催日時を決定し、来所出来なかった御家族には、会議、話し合いの内容等が伝わるよう報告を送付している。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員などで2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 会議では、行事報告や事業所の状況報告をしたり、認知症の症状などを話し合っている。 インフルエンザ等の予防のため、面会を遠慮して頂いている件や家族等の来訪時に食べ物の持ち込みには十分注意をしてもらい、食中毒をおこさないよう促すなど、率直な意見交換をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当窓口にて、事業所のパンフレットを置いて頂いたり、職員は市担当者に電話や訪問等で空き状況を伝える等して連携を図り、協力関係を築いている。	市職員は運営推進会議に毎回出席している。 管理者は月1回程度市担当者を訪問し、利用者の状況を報告したり、相談をしたりするほか、電話でも相談して連携を図り、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容と、その弊害について、内部研修を行い、全職員で再確認し、共有し支援している。やむを得ず、身体拘束をする場合に備え、家族等の同意書、経過観察記録を作成している。	「身体拘束のない介護のための指針」のポスターをフロアに掲示するとともに、内部研修会を実施し、職員は禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を理解している。 利用者の状態からやむを得ずつなぎ服を着用している利用者があるが、管理者は家族等に説明して書面で同意を得ている。 全職員で月何回もミーティングなどで話し合い、経過観察記録や再検討記録を作成し、その結果を家族等に報告している。 玄関や居室は施錠をしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連施設との話し合う機会を設け、事業所内での虐待が見逃される事が無い様、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性を関係者と話し合い、利用者の人権を脅かさないよう日々の介護に活かし、支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書、重要事項説明書等で理解を頂く迄、十分な説明を行い、家族の意見も十分に聞くようにし、納得して頂ける様になっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等から出た意見について、事業所独自のシートに記録すると共に、家族、利用者とな得が得られるように相談している。平成25年度、御家族へ無記名のアンケートを実施している。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに、玄関に意見箱を設置している。 家族等の面会が多いため、職員はその都度「何かありませんか」と声かけをして意見や要望を聞いている。 平成25年度に家族等は無記名のアンケートを実施したが、回答率が低く家族等の意見や要望を汲みあげるまでには至っていない。	アンケートの内容を検討し、今一度家族等は無記名のアンケートを実施することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ミーティングや日々の話し合いの中で、職員の意見や提案を聞き、より良い介護環境になるよう努めています。	管理者は毎朝のミーティング時に職員から意見や要望を聞くとともに、日頃から職員と気軽に話しができるような雰囲気づくりに努めている。 管理者は勤務体制で職員の都合を聴き、柔軟に対応している。 事業所だけでは解決できない事案は、月1回の本部会議で提議し、炊飯器を購入するなど、改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営母体での、月に一度の定例会議において、意見、要望等話し合う機会があり、職員処遇への反映や向上を持って、働けるような配慮、対応に努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用時は、施設内にて2ヶ月間指導を受けた上で、採用を決定されます。後、段階に応じた研修に参加している。ミーティングを通し、学ぶ機会を作ると共に、内部研修を行い、経験を積みながら習得できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	安全対策委員会、給食委員会、内部研修を通して、介護技術、サービスの質の向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談時から、信頼関係を築いていけるように、必ず面談を行い、必要があれば体験入所等も視野に入れて、不安を取り除いていけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分話し合いを行い、不安や要望等を良く聴いて理解し、コミュニケーションを図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で、本人・家族の必要としているサービスが、今、何であるかを他のサービスの内容も念頭に入れて、対応しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に安心し、楽しく暮らして頂く為に、どのようにしたら良いのかについて、意見交換、コミュニケーションを行い、出来る事は自分で出来るよう支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こすもすだよりを毎月1回郵送したり、生活の様子を電話で報告し、常に安心して頂けるよう、又、共に本人を支えてゆける関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人との電話のやりとり、外泊、墓参りなど、家族等の協力を得ながら、利用者の希望に沿った支援をし、これまで大切にして来た馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めています。	管理者は正月や盆に外出や外泊ができるよう家族等をお願いしたり、利用者は3ヶ月に1回定期的に自宅に外泊しており、人や場所との関係が継続できるように支援をしている。 事業所の玄関近くに公衆電話があり、利用者が自宅や知人へのお礼の電話をかける時には手伝ったり、年賀状の代筆などを行い、馴染みの人との関係が継続できるように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有の場でのトラブル防止に努めると共に、安心できる環境作りに配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為、退所になる方は、お見舞いに行き、必要に応じて情報交換を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は利用者との会話や表情などから一人一人の思いや意向の把握に努め、利用者の気持ちに沿った支援をしている。ケース台帳を作成し、入居者のこれまでの暮らし方について理解を深められるよう努めている。	職員は基本情報や日々の関わりの中で利用者一人ひとりの思いや希望を推し測り、意向にそった支援ができるよう努めている。 利用者の生活の様子を基に話し合い、把握した内容をケース台帳に記載して全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人が、個々に安心出来るように、環境を整え、利用者や家族との日々の会話の中で、信頼関係を築きながら時間をかけて把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムの違いを理解し、毎日の活動度、体調、ADLの把握に努め、生活の様子を、介護記録、申し送りノートに記録することで、総合的な把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、全ての利用者や家族等から書面で同意を得ている。面会時に機会を作り、最近の生活の様子を汲み入れ、解り易く説明している。	介護計画は家族等の意見や要望を聞き、管理者や計画作成担当者、職員で話し合い、利用者の要望にそった介護計画を作成している。 基本的には3ヶ月毎のモニタリングと6ヶ月毎に見直しをしている。 利用者の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成し、日々の生活の様子・食事量・排泄の記録を行っている。申し送りノート、業務日誌で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連施設医師、看護師との医療連携を図ると共に、主治医の週1回の回診と外来受診を行い、その時々に見えるニーズに対応し、多機能の支援が行えるよう努めています。院外受診支援も、家族の協力のもと行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心した、より豊かな生活をする為に、地域住民のボランティア、民生委員、美容室等と連携して個々の利用者支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等と連携し、利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援している他、週1回運営母体の医療機関へ受診を支援している。受診結果は、変化があれば都度家族等に連絡している。	管理者は契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医を聞いてはいるが、運営母体の協力医療機関がすぐ近くにあり、緊急時の対応や24時間受診が可能となっているため、利用者全員が協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。 毎週火曜日に協力医療機関の医師による訪問診療があるほか、毎週金曜日は「グループホームこすもす」の外来受診日と定めており、利用者の状態に応じて外来受診を支援し、受診結果は変化があれば家族等に電話などで報告するなど、適切な医療が受けられるように支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連施設の看護師、主任の看護師と連絡を取り合い、健康の管理やケアについての相談を行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族と情報交換し、混乱なく過ごせ、治療できるように支援しています。定期的にお見舞いに行き、馴染みの関係を継続できるようにし、利用者が安心できるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期における事業所の対応方針について、契約時に十分に家族に説明する機会を作ると共に、納得頂いた上で同意を頂いている。	事業所は看取りをしない方針で、契約時に利用者や家族等に重度化や看取りに関する事業所の対応方針を説明し、書面で同意を得ている。 「医療連携体制加算の重度化・看取りに関する説明及び同意書」と「看取り介護に関する事前調査」の書類は、事業所として基本的に看取りはしないと明記しているにも関わらず、内容が看取りに関する具体的な内容になっており、整合性がとれないために書類の説明も曖昧である。	「重度化や看取りに関する事業所の方針」について話し合い、事業所でできることとできないことを明文化して利用者や家族等に説明し、同意を得ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを実行しています。職員全員で、緊急時の意識を高め何時、何が起こっても、冷静に対応出来る様に体制を整えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時、関連施設から救援を呼び、避難、誘導、見守りに配慮出来るよう協力体制を作っている。ライフラインが復旧する迄の数日分の食糧、生活用品についても、備蓄し、管理している。	夜間想定を含む消防総合訓練を消防署立会のもと年2回実施するとともに、実施報告書を作成し、訓練内容や課題について話し合って記録に残している。 消防訓練に地域住民の参加を得るまでには至っていない。 災害に備えて飲料水や缶詰、経腸栄養剤、日持ちするスナック菓子を備蓄しているが、備蓄品リストを作成するまでには至っていない。	運営推進会議等で地域住民に避難訓練への参加を働きかけ、災害時の協力体制を築くことを期待する。 災害に備えて備蓄品リストを作成し、品目や数量、賞味期限を管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の呼び方や言葉遣いに気を配り、利用者一人一人の尊厳を大切に考えて支援している。個人用ファイルは、事務室内の鍵のかかるロッカーに保管し、情報漏洩に留意すると共に、「個人情報保護に対する基本方針」を作成し、廊下に掲示している。	利用者の尊厳やプライバシーを大切にし、常に職員で話し合って利用者の呼び方や言葉遣いに気を遣ったり、自尊心に配慮したケアに取り組んでいる。 管理者は利用者のトイレ介助の際には必ずドアを閉めるよう指導しているほか、お風呂の出入り口にカーテンを設置するなど、プライバシーを損ねないケアに努めている。 個人情報に関する書類は、事務所の鍵のかかるロッカーに保管するとともに、「個人情報保護に対する基本方針」を廊下に掲示し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の持っている力を引き出し、出来る限り自分の出来る事を行っていただく視点から、自立支援を心掛けている。一緒に生活する中で、お手伝いや楽しみ事など、本人が自己決定できるよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態やペースに応じて、柔軟なケアをしていくよう心掛け、希望に沿って無理なく過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、訪問美容室が来所されている。利用者の希望に沿った散髪に配慮して頂いていると共に、顔そりも行っている。その人らしい身だしなみが出来るよう、日々の生活の中でも支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は栄養士によりカロリー計算されたもので、隣接する関連施設へ利用者と職員で取りに行っている。利用者個々に応じて調理したり、代替品で対応している。自家菜園での野菜を盛り付けたり、外食に行き、好みのものを食す機会も作っている。	隣接する同一法人の特別養護老人ホームの厨房で昼食と夕食が作られており、利用者と職員が一緒に取りに行っている。職員は利用者と一緒に食卓を囲んで同じ食事を摂り、利用者の食事介助をしながら見守りや声かけをしている。利用者は職員と一緒に下善やテーブル拭き、食器洗いなど、利用者の能力に応じた役割を担っている。2ヶ月毎に回転寿司やレストランでの外食支援をしているほか、毎月手作りのおやつを提供しており、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士により献立が決められており、栄養のバランスが保たれている。食事をしっかり摂取出来るように見守り、盛り付けに工夫をしています。好き嫌い、咀嚼能力に配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きや嗽の声かけ、見守りを行っている。義歯は毎夕1回、義歯洗浄剤にて消毒しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は「時間がかかっても自分ですることが大切」と考え、利用者一人一人の排泄パターンを記録し排泄の自立へ向けての支援をしている。夜間は、ポータブルトイレ等を使用し、なるべくおむつを使用しないで済むような支援を心掛けている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個人のリズムに合わせてトイレ誘導を行い、なるべくトイレで排泄ができるように支援をしている。前回の「期待したい内容」に掲げられていた排泄チェック表については、利用者一人ひとりの排泄パターンを時間毎に記録して判り易く見直している。昼間はリハビリパンツを使用しているもトイレでの排泄を支援するとともに、夜間は利用者の状態に応じて居室にポータブルトイレを配置して排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かす機会を作り、排泄のリズムを整えられるよう配慮し、水分、繊維質の多い食事の工夫や乳製品をおやつに取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、週2回午前中と決まっているが、希望に応じて、シャワー浴や関連施設へ機械浴に入浴しに行く事も出来る。ゆず湯等、季節に応じ行ったり、入浴剤を使用し入浴がリラックスした楽しみのもとなるよう支援している。	入浴は基本的に週2回午前中に支援しているが、利用者の希望にそってシャワー浴や近隣の同一法人の小規模多機能型居宅介護施設の機械浴を使用することもできる。入浴が楽しめるよう入浴剤や柚子湯を取り入れているほか、安心して入浴ができるようシャワー椅子を配置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や外気浴など、身体を動かしたり、日中の活動量を増やして頂く事で、生活リズムを整え、夜間安眠出来るように援助しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の処方箋をファイルにしており、全職員が内容を把握出来るようにし、副作用についても十分理解するように努めています。服薬時には、間違いが無いように確認し、服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事、楽しみ事、気分転換に繋がる支援に配慮し、個人の力を発揮できる場を作り、感謝の言葉をかけています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、利用者の歩行ペースにあわせて、施設周辺を散歩したり、法人所有の車輛を使用して花見やドライブ、食事、買い物、外出など2ヶ月に1回のペースで、戸外に出る機会を作っている。又、御家族が、外泊の機会を作ってくれたりと協力体制も整っている。	利用者は天気の良い日は事業所周辺の散歩に出かけ、季節を感じながら地域住民と会話を交わすなどして気分転換を図っている。 利用者の希望を聞いて年間行事計画を立て、初詣や花見、紅葉狩り、葡萄狩りなどの外出支援をしている。 家族等の協力を得て毎週1回程度自宅へ外出したり、家族等と一緒に自宅周辺を散歩したりしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出、外食時等、職員が見守る中で自分で支払いが出来るよう努めています。家族等へ電話をかける際の小銭を自己管理されている方もおります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人からの贈り物、年賀状へのあいさつなど、電話をかけた方等は、職員と一緒にとりつぐなど支援をしています。手紙や年賀状等を一緒に書いて送付しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、リビング等に利用者の製作した手芸品や工作物、季節の花等飾り、家庭的な雰囲気を作っています。豊のコーナーや手すり下の暖房パネル、多目的に利用可能なプレイルームを設置し、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫しています。	居間兼食堂は広く明るい空間となっており、居間や廊下には行事の写真や観葉植物、季節の花が飾ってあり、温もりが感じられる空間となっている。 居間の一角に和室を設けており、利用者は寛いだり洗濯物をたたんだりしている。 廊下の壁には利用者と職員が折り紙で制作した鯉のぼりや居間には紫陽花の貼り絵が飾ってあり、季節が感じられるよう工夫をしている。 居間やトイレ、浴室などはいずれも清潔に保たれ、利用者が気持ちよく生活ができるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにおいて自由に過ごせ、交流できるように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ダンスや鏡台、テレビ、仏壇等、利用者の馴染みの物品があり、家族や孫の写真、ぬいぐるみ、人形、作品等が飾られ、居心地よく暮らせる場所となっている。	管理者は契約時に馴染みの物品を持参してもらえるよう説明している。 居室はエアコンやベット、整理箆筒、洗面台、カーテンが備え付けられている。 利用者は家族等と相談し、家族の写真やぬいぐるみなど思い思いの物品を自由に持ち込み、利用者好みの居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の活かせる力を大切にす る支援、介護の仕方について 日々、職員同士はミーティングで 報告し合い、実施しています。転 倒することがないように、バリアフ リーとし、手すりを設置していま す。居室等間違いがないように、 必要に応じて目印を付けていま す。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームこすもす

作成日 平成26年10月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	平成25年度に家族等に無記名のアンケートを実施したが、回答率が低く、家族等の意見や要望を汲み上げるまでに至っていない。	アンケート内容を検討し今一度、家族等に無記名のアンケートを行う。	平成26年度に無記名のアンケートを実施することに決めた。こすもす来訪者に、アンケート調査を行って頂き、意見・要望を汲み上げて行く。	3ヶ月
2	33	重度化、看取りについて、整合性のとれた書類の整備を行っていくこと。	重度化、看取りについて書類を作成し、同意を得ていく。	事業所の出来る事、出来ない事を盛り込んだ書類を作成し、家族・利用者に説明し、同意を得ていく。	3ヶ月
3	35	消防訓練に地域住民の参加が得られていない。	避難訓練時に外部からの協力が得られるよう働きかけを行っていく。	運営推進会議や、民生委員、地域の方に直接訪問する等、災害時に協力体制を築けるよう働きかけを行っていく。	1年
4	35	災害に備えて、備蓄しているものはあるが、備蓄品リストを作成する迄には至っていない。	備蓄品リストを作成し、品目、数量、消費期限について管理していく。	備蓄品リストの作成。定期的な物品の入れ替え、管理を行っていく。	半年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。